

安兵衛

News of Yasubei Horibe

だより

第4号 (令和8年6月14日発行)

発行所／武庸会
〒957-0055 新発田市中央町 3-2-22
松録館ビル 1F 新発田市観光協会内
TEL 0254(26)6789
FAX 0254(26)5031

堀部安兵衛を知る基本書

武庸会百周年記念誌

- 堀部安兵衛略伝
- 武庸会百年のあゆみ
- 武庸会の百年と新発田市剣道連盟
- 元禄赤穂事件ほか

問合せ：高木書店 TEL.0254(22)3241

イタリア大使館で 安兵衛法要に参加



100人ほど集まったイタリア大使館での法要(令和8年2月9日)

令和8年2月9日(月)、東京都港区三田の旧伊予松山藩中屋敷イタリア大使館での「赤穂義士追悼式(法要)」に、新発田・武庸会(たけつねかい)から高橋正明会長と会員の竹内孝浩氏が出席した。

堀部安兵衛武庸ら47名は元禄14(1702)年12月14日、赤穂藩家老の大石内蔵助に従って本所の吉良上野介の屋敷に討入り、吉良を討った。討入り後47名は4組に分けられ、安兵衛ら10名は伊予松山藩邸にお預けとなった。翌元禄15(1703)年2月4日、幕府の命により安兵衛らは切腹。安兵衛の辞世は「梓弓(あずさゆみ)ためしにも引け武士(ものゝあ)の道は迷わぬ後と思わばと言われ。伊予松山藩邸では、切腹した場所を池を掘り、掘った土で築山を作ったと伝えられている。



イタリア大使館の庭園

もともと伊予松山藩は徳川家康の異父弟の子、つまり甥っ子が桑名から移って城主になり、明治維新以後は松方正義氏第2・4代の総理大臣(薩摩出身)邸となり、昭和9(1934)年にイタリア

ア政府が土地を取得したもの。昭和14(1939)年に当時の駐日大使アウリッティ氏が、安兵衛らが切腹した土で作った築山に赤穂義士のイタリア語・日本語の顕彰碑を建てた。日本語の碑文は作家の徳富蘇峰によるもの。なお昭和3(1928)年には日光・中禅寺湖畔に、新発田カトリック教会のアントニン・レーモンド氏が設計した大使館別荘を建設、平成9(1997)年まで使われた。

そもそも、なぜイタリア大使館との縁かと言うと、武庸会創立100周年の平成26(2014)年に武庸会前会長の嶋谷次郎八氏が「新発田でも安兵衛の墓にお参りしたい」と考え、会員がそれなら安兵衛の父の菩提寺の長徳寺しかない」と考えたことによる。平成29(2017)年に東京の泉丘寺から分霊してもらい、令和6(2024)年にイタリア大使館から切腹の地の土をもらって長徳寺に新しく建てた墓に、イタリア大使ベネデッティ氏自らが納土したことによる。



「赤穂ノ遺臣」の顕彰碑

法要当日、イタリア大使館では泉岳寺僧侶の読経と通拝、ベネデッティ氏が手を合わせ、焼香後に新発田市長の親書も読み上げられた。法要後、参詣者は庭園や顕彰碑などを回った。

安兵衛の「義の心」

会長が大使に親書を手渡す



向かって右がベネデッティ大使

今年の2月9日に会員の竹内孝浩さんと連れ立ってイタリア大使館に向き、赤穂義士追悼式(法要)に参加した。イタリア大使館は旧伊予松山藩江戸中屋敷跡にあり、堀部安兵衛が本懐を遂げた後に同志10名とともに切腹した地である。焼香後、二階堂馨新発田市長からの親書を読み上げ、感謝の言葉を頂いた。法要では涙する人もいて、聞くところによると毎年ここで法要が営まれているという。ベネデッティ大使は「義の心は西洋でも同じ、私たちは大切に思っている」と言うが、今の日本人には「義の心」が薄らいでいるように感じるのには私だけだろうか。新発田でももちろん法要は行っているが、これほど盛大ではない。と言うのは武庸会(たけつねかい)の会員の数も徐々に減り、十分な活動ができていないからである。今後は精力的に会員増強を図るつもりだ。この秋10月に長徳寺で開催予定の国本はる乃(国本晴美さんに師事)の浪曲口演の話で中央義士会の人と盛り上がったことが嬉しい。なお、当会員の阿部聡さんががん治療から復帰したことを報告しておく(高橋正明)



堀部安兵衛は大英雄。義に生きた新発田人

堀部安兵衛武庸は寛文10(1670)年、新発田藩十中山弥次右衛門の嫡子として外ヶ輪(今のJA北越後新発田店)で生まれた。母は藩祖秀勝の娘糸姫と溝口四郎兵衛との娘である。したがって、安兵衛は藩祖の曾孫だ。

父は天和3(1683)年に辰巳橋失火の責任をとって浪人しその後死亡、安兵衛は白根の牛崎村長井家に嫁いだ姉の世話になり、19歳で江戸に出る。

江戸では堀内源左衛門道場で直心影流を学び、道場一の達人となった。

高田馬場の助太刀で一挙に名を挙げた安兵衛

元禄7(1694)年、堀内道場で知り合い叔父甥の契りを交わしていた菅野六郎左衛門の高田馬場の果し合いに「助太刀」し、3人を倒した。講談では18人倒したことになる。また、早稲田の酒屋小倉屋(現存)で二升酒をおったとの伝説もある。

この活躍を聞いた赤穂藩留守居役堀部弥兵衛から婿にと懇願

武庸会(たけつねかい)は堀部安兵衛の顕彰団体

四十七士の一人、新発田生まれの堀部安兵衛武庸を顕彰する武庸会(たけつねかい)は明治45(1912)年、新発田町の有志、富田精策・上野喜永次・高橋誠一郎・土田亦次郎らが相集って堀部安兵衛の顕彰碑を生家菩提寺の長徳寺に建立する計画を進めていたのが創設のきっかけだ。

人気絶頂の桃中軒雲右衛門の義士像寄贈が設立に拍車をその年の5月、義士銘々伝で人気絶頂の浪曲師・桃中軒雲右衛門が新発田を訪れ、石碑建立の話に感激し、義士の木像寄贈を申し出た。そして12月14日に武庸会の発足を決議し、翌大正2(1913)年2月4日に武庸会が発足した(なお、中央義士会の創設は大正5年)。

同年4月10日、木像は新発田駅に到着し、16日三之町青年団や義士に扮した新発田芸妓(写真)によって長徳寺に納められた。ただ、義士像を安置する義士堂の建設は紆余曲折があり、昭和4(1929)年まで待たねばならなかった。その後、会員は100名を超える盛況ぶりだったが、戦争中の昭和18(1943)年からは活動が休止となり、戦後もサンフランシスコ講和条約が成るまで、活動できなかった。しかし、条約成立後の昭和26(1951)年に義士祭が復活、平成25(2013)年に設立100周年を迎えた。

武庸会の行事は12月14日の義士祭、2月4日の命日法要がある。しかし、そのほかに平成元(1989)年から30年以上続いた唐仁塾などによる「討ち入り蕎麦振る舞い」、平成9(1997)年の「手植えの松二代目植樹」、平成24(2012)年から数回続いた生誕地まつり実施なども記しておく。

なお武庸は安兵衛の本名だ。



たけつねかい 武庸会の役員				
会 長	高 橋	正 明		
副会長	石 川	富 夫		
副会長	長谷川	敏		
副会長	大 滝	俊 雄		
顧 問	嶋 谷	次郎八		

義士祭

令和8年12月14日(月) 午後14時~18時
場所/長徳寺(大栄町2-7-22)

12月14日は新発田生まれの剣豪、堀部安兵衛武庸が吉良邸に討入りし、見事本懐を遂げた日です。安兵衛を顕彰する武庸会では毎年、法要を営むとともに「少年少女剣士」によるパレードを実施しています。当日は、新発田ライオンズクラブによる「討入りそば」の振舞(無料)や「義士堂」の公開、御免町小安兵衛太鼓部による演奏で安兵衛を偲ぶ予定です。

参 無料 問 武庸会事務局(観光協会内) TEL 0254-26-6789



※予定は当日変更になる場合がございます

武庸会に入会しませんか?

以下ご記入の上、
年会費 3,000円をお振込ください。

氏名 _____

〒 _____

住所 _____

電話番号 _____

堀部安兵衛の顕彰事業のほか、
安兵衛関連出版事業や
安兵衛 & 四十七士および
忠臣蔵ゆかりの地への旅など
楽しい企画を実施しています。

年会費振込先

新発田信用金庫 本店
普通口座 0446278
口座名 タケツネカイ

問い合わせ/ 新発田市観光協会内 武庸会事務局
TEL.0254-26-6789 FAX.0254-26-5031